

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町高等学校

全校登山雪辱戦・・・山岳部秋山合宿



山の麓にも紅葉が下りてきた。今年山岳部では、全校登山にさきがけて実施した夏山準備合宿で鹿島槍登山を行ったが、天候が思わしくなく、冷池のキャンプ場で冷たい雨と風に打たれ、目指した鹿島槍には登れなかった。また、今年の全校登山（大町高校最後の）でも、初日午後からの天候悪化で、ほとんどの隊は頂上アタックを断念した。そこで、山岳部の秋山合宿の第2弾として、今年全校登山でも山岳部合宿でも登れなかった山に登ろうという声があがってきた。それで、10月の3連休に計画し、実施した。

10日は唐松岳に登り、11日は五龍岳、鹿島槍ヶ岳、12日は爺ヶ岳の山頂に立った。このコースは、唐松から五龍の間は牛首のクサリ場、五龍から鹿島槍の間は、八峰キレットが行く手をふさぐ後立山でも難路の一つだ。加えて五龍から鹿島の間にはテント場がなく、唯一のオアシスともいべきキレット小屋もすでに今シーズンの営業を終えているため、水の補給もできない。

10日は好天に恵まれて、唐松までは大勢の人が訪れていたが、小屋主の中川さんによれば、翌日の悪天を見越して日帰りばかりとのことだった。我々は生徒6名に松田さんと私の6名。唐松のピークを踏んで、五龍へ向かったが、縦走路ではほとんど人には会わなかった。牛首の鎖場も渋滞もなく、明日のキレットへの前哨戦ともいべきいいトレーニングになった。五龍山荘では、テント泊は我々も含めおよそ10張り。夜半から雨が降り出した。11日は雪も覚悟しての出発。しかし、生徒たちは意気軒昂。常に猛烈な西風が吹く中、朝6時50分に五龍山荘を出発、五龍岳の山頂で山岳部歌を歌い、難所八峰キレットを通過したのは13時。14時過ぎには鹿島槍に立った。しかし、さすがに疲労困憊、疲れて濡れた身体をひきずって、時折ほほを打つ霰に悩まされながら、我々が冷池のキャンプ場に着いたのは15時ころだった。緊張感を伴う8時間の行動であった。

一方で、この日、前日模試があった関係で入山できなかった3人の生徒を連れて、もう一人の顧問矢口先生が、赤岩尾根を登ってきてくれた。翌日仕事があるとのことで、矢口先生がそのまま鹿島の頂上から下山した。恐ろしいばかりの健脚ぶり……。初日、2日目は8人パーティだったが、ここでパー

写真上から、
唐松岳山頂
五龍岳で山岳部歌を歌う
八峰キレットを行く
風雨の鹿島槍山頂
爺ヶ岳山頂

ティは後発隊の3人を加え11人（内生徒9名）となった。これで1、2年生の部員全員がそろった。しかし、この晩山は大荒れに荒れた。猛烈な風と雨でテントはひしゃげ、終日雨の中の行動で濡れた身体も休まらない。しかし、テントの中では生徒は陽気。精神的に強い生徒を前に顧問が泣き言を言っているわけにもいかない。風でまんじりともできない夜を明かす。夜半過ぎ、用を足すために外へ出ると風は猛烈に吹いていたが、満天の星。天候は回復し、少し気持ちが明るくなった。

12日、朝起きるとテント場から望む剣はうっすらと雪をかぶっていた。霜柱を踏みながら、爺ヶ岳の中峰、南峰に登る。山岳部全員で大町市を望み見ながら、山岳部歌を歌い、種池小屋から柏原新道を一気に下った。2泊3日、晩秋の後立山にはすでに冬の気配。今回途中で訪れた唐松、五龍、冷池、種池の4件の山小屋は小屋じまい間近だったが、顔を出してみるといずれも責任者やオーナーがいたので、来年度の全校登山について、学校は統合するけれども続けるのでよろしくという、一様にできるかぎりの応援をしたいのと温かいことばをかけていただいた。下山後、テントを干し、3日間で訪れた山を望みながら、地元の高校として、来年以降も山を愛する生徒を育てていきたいと思ったことだった。

ちよいと高校生とクライミング

18日は予めからクライミングに行きたいと言っていた生徒を4名限定（私の見られる限界人数兼車の乗車定員）と酷な絞り込みをして、小川山に行った。先日山本さんと一緒に行ったことで私のクライミングのマインドに、ちょっと火がついたこともその理由の一つである。2年生のYとKはこれまでの経験から、まあまあロープワークを任せてもいいだろうということで2人をアンザイレンさせ、1年生のIとT（女子）の二人はフォローとして、小生がリードした。一人で4人の生徒を見ながら岩場へというのは、少々勇気のいることではあったが、場所はスラブ状岩壁。2週間前に下見済みである。モチベーションと技術的な観点からメンバーをセレクトしたことでリスク回避。以上、総合的に判断してこれなら大丈夫だろうと考えて実施した。しかし、基本的に重力に逆らう運動たるクライミングにおいて絶対はない。ダブルチェック、トリプルチェックはもとより、私が登っているときには基本的には生徒は登らせないなどの基本的な決め事を守らせながら、行った。

スラブ状岩壁には、これまで何度も生徒を連れてきたが、いつも最下部のガマスラブでの安全確保などに時間を取られ、結果的に途中で下山ということが多かった。しかし、今回は積極的に登らせることで、6ピッチ、何とか上まで抜けられた。当然今回もそれなりの安全指導をしたことは言うまでもないが、安全がある程度確保された人工壁とは違い、積極的に安全を意識し、すべてに気を配らねばならない外岩マルチピッチは、一日経験させるだけでも、安全に関する意識は間違いなく向上する。今回使った結び方は、エイトフィギュアノット（8の字結び）、クローブヒッチ、ダブルフィッシャーマン（懸垂時のロープの結末）のみであったが、これらロープワークについて、生徒は、もう身体で覚えましたと言っていた。「かわいい子には旅をさせよ」ではないが、時にはこんな指導もあっていいのかなと思った。



写真は、いずれも一年生